

屋根の庇に垂れ下がっている氷柱（つらら）を見て、冬の風物詩だ等と眺めていたのだが、そんな優雅なものではないことを痛感した。深夜から朝にかけて、室内のどこかで規則的なポタンポタンという音が微かに聞こえる。二階の庇から一回の屋根に落ちる水滴の音なのだろうと高を括っていたのだが、これが、目覚めてみて吃驚。『すが漏り』が起きていたのだ。すが漏りという言葉はかつて聞いた事があるが、まさか官舎とは言え現に自分が住んでいる住居がそういう被害にあうとは思っても見なかった。



(山下撮影：黒い部分に水が溜まっている。)

一人では如何ともし難く、早速に駆けつけてくれた諸官等と共に屋根に上って確認して吃驚した次第である。二階の屋根にプールが出現している。一階部分の屋根は雪下ろしをしていたので、事なきを得たのであるが、二階は実はずるずる延ばしにしていたのである。数人がかりで、屋根の厚い氷を割って全ての雪を降ろしたので当分大丈夫だろう。感謝。

スリッパしやすい屋上で雪・氷割りと雪なげ（捨てるのを何故投げるといのか未だ不明だが・・・）は危険な作業だ。通行する人や車両に気を使いながらの約二時間の作業であった。遠く白い日高山脈の山並みが陽に映えて輝き、現場監督然としてそれを眺めているしか役に立たない小生ではあったが・・。

すが漏りの一般的な発生メカニズムは次の通りである。屋根の雪が室内の暖気によって融けて、軒先部分は寒風に吹き曝しであり、外気と同じ温度となる為凍ってしまう。庇部分には硬い氷の堤が鎮座し、室内部分の屋根の雪が融け出し氷で堰き止められて水たまり（所謂プール）が出来る。溜まった水が屋根の隙間に逆流などして浸透し、雨漏りのように水が漏れてくるのである。

従って、こまめに屋根の雪下ろしはしておかなくてはならぬのである。寒さが緩んでくる謂わば春寒というべき頃になると屋上の雪も融けやすくなるが、それでも夜間は氷点下にはなっていて、氷が形成され増殖する。すが漏りは寒さが緩む頃に起きるのはこの為である。

北海道の屋根は全てかなり急勾配の三角屋根と相場が決まっていた筈だが、近年は、小生の住む官舎と同じく比較的フラットなものが多いようだ。更に、敷地を目一杯に使いたい為であろうか、庇部分と道路や隣家との距離が殆どない。隣家との係争・トラブル防止、落雪事故防止の観点から、落雪防止の雪止め金具が屋根に沢山取り付けられてあった。「無落雪フラット屋根」と呼ばれている。逆に言えば、無落雪フラット屋根構造だから、雪が溜まって凍ってしまい、やがてすが漏りが起きる事になるともいえる。

応援に駆けつけてくれたOBの Y 氏の話によると、特に北側の屋根ですぐ漏りが起き易く、ミラーというステンレス製の板を適宜設置して太陽光で雪を融かしてしまおうとい

う方法も開発されていると言う。十勝晴れの当地等にはかなりの効果を発揮するかも知れぬ。ヒーターを装着する方法もあろうと考えられるが、ランニングコストがかかり過ぎるのだろう。